

◇ プログラム ◇

※各曲目の紹介は研修生自身によるものです

ドニゼッティ『連隊の娘』 “フランスに敬礼！”

G.Donizetti / La fille du régiment "Salut à la France!"

(マリー) 吉田美咲子

(Pf.) 高田絢子

幼い頃に両親と生き別れフランス軍の連隊に育てられた娘マリー。叔母との再会で花嫁修業を受けさせられるが、軍隊育ちのマリーの肌には合わない。自分の運命は変わってしまったと嘆いているところに、行進曲が聴こえてくる…。

ヴェルディ『椿姫』 “ああ、そはかの人か ～ 花から花へ”

G.Verdi / La Traviata "È strano!~Sempre libera."

(ヴィオレッタ) 宮地江奈

(Pf.) 高田絢子

パトロンの庇護によって享楽の世界に暮らす高級娼婦ヴィオレッタ。純朴な青年アルフレードからの愛の告白により、彼女は本当の恋心を知る。心に芽生えた、初めての熱い想いに動揺するヴィオレッタの心情を表したアリア。

モーツァルト『ドン・ジョバンニ』 “カタログの歌”

W.A.Mozart / Don Giovanni "Madamina, il catalogo è questo"

(レポレッコ) 氷見健一郎

(Pf.) 高田絢子

ドン・ジョバンニの従者レポレッコは、主人がどこで、どのような女性を誘惑し、一夜を共にしたかをカタログに書き留めていた。それを披露しながら、彼が、一人の女性のみならず愛情を注ぐことはありえないということを、自慢げに語る。

戸口純『白狐』 “月よ”

Jun Toguchi / The White Fox "Oh moon"

(コルハ) 城村紗智

(Pf.) 石野真穂

この曲は、明治日本画壇の雄であった岡倉天心の英語のリブレットに基づいて、作曲家・戸口純氏により作曲されたもの。この題材は古くから歌舞伎狂言にも採り上げられ、清元保名として歌舞伎舞踊の名作でもある。

保名を恋慕する葛の葉に横恋慕する悪右衛門は、白狐コルハの持つ魔法の玉の力で彼女を我が物にと試みるが、コルハを殺そうとしたところを保名にさえぎられ、コルハは救われる。ところが悪右衛門は保名に逆襲し、葛の葉を連れ去ってしまう。錯乱した手負いの保名を救うため、コルハは自分を葛の葉の姿に変えてほしいと月に願う。

ロッシーニ『セビリアの理髪師』 “あの不思議にして万能の”

G.Rossini / Il Barbiere di Siviglia "All'idea di quel metallo"

(伯爵) 荏原孝弥

(フィガロ) 高橋正尚

(Pf.) 石野真穂

伯爵は恋するロジーナに会うため何か閃きをとフィガロに尋ねる。フィガロは報酬の金貨を見るや否やバルトロの家に入るための閃きを伯爵に伝える。伯爵は燃え上がる恋心に、フィガロは大金が手に入ることに高揚し意気揚々と歌う。

ロッシーニ『セビリアの理髪師』 “私は街の何でも屋”

G.Rossini / Il Barbiere di Siviglia "Largo al factotum"

(フィガロ) 大野浩司

(Pf.) 石野真穂

セビリアの街に、颯爽とやってくる男。その名はフィガロ。彼は理髪師であるが、人々から依頼された様々な仕事を、華麗にこなす街の何でも屋である。誰からも必要とされ、何でもできる自分自身を褒め称え歌うのであった。

～ 休憩 ～

オッフェンバック『ホフマン物語』 “美しい夜、おお恋の夜～舟唄～”

J.Offenbach / Les contes d'Hoffmann "Barcarolle"

(ニクラウス) 十合翔子
(ジュリエッタ) 城村紗智
(Pf.) 高田絢子

舞台はヴェネツィア。高級娼婦ジュリエッタとニクラウス（主人公ホフマンの親友に化身する女神ミューズ）が、麗しくも怪しい愛の夜へと誘う。映画『La vita è bella』等に使用され広く親しまれる曲。

トマ『ハムレット』 “私も遊びの仲間に入れてください”

A.Thomas / Hamlet "A vos jeux, mes amis"

(オフェリ) 砂田愛梨
(Pf.) 高田絢子

シェイクスピア「ハムレット」を題材にした全5幕のフランス・オペラ。アムレはオフェリの父が自分の父、王暗殺の共犯者であった事を知り、愛し合っていたオフェリを冷酷に突き放す。オフェリは発狂して自分はアムレの妻だと思い込み、放浪する男たちを誘い込む水の精の話を歌い出す。最後に彼女は川に身を投げ静かに沈んでいく。

ドニゼッティ『愛の妙薬』 “20スクーディ！”

G.Donizetti / L'elisir D'amore "Venti scudi!"

(ベルコーレ) 伊良波良真
(ネモリーノ) 水野優
(Pf.) 高田絢子

“愛の妙薬”を手に入れたいが、無一文になってしまい買うことができないネモリーノ。するとそこへ、ベルコーレがやって来て「軍隊に入れば20スクーディが手に入るぞ！」とネモリーノをそそのかし…

グノー『ファウスト』 “トゥーレの王～宝石の歌”

Ch.Gounod / Faust "Chanson du roi de Thulé ...Air des Bijoux"

(マルグリート) 西尾友香理
(Pf.) 石野真穂

清純な乙女マルグリートは出会ったばかりのファウストを想いトゥーレの王の物語を歌う。そこに宝石箱を見つけ、思わず宝石を身につけた鏡に映る美しい自分を見て、まるでお姫様、と魔法にかかった様に見とれ、恍惚と若い情熱溢れ歌います。

プッチーニ『ラ・ボエーム』 “冷たい手”

G.Puccini / La Bohème "Che gelida manina"

(ロドルフォ) 水野秀樹
(Pf.) 石野真穂

19世紀のパリのクリスマスイブ、部屋で詩を書くロドルフォのもとにミミが訪ねてくる。彼女に恋心を抱いたロドルフォは自身の自己紹介をし、その中で自分の夢と希望、そして彼女への想いを語る。

チレア『アドリアーナ・ルクヴルール』 “苦い喜び”

F.Cilea / Adriana Lecouvreur "Acerba volutta"

(バイヨン公妃) 高橋紫乃
(Pf.) 石野真穂

夜のセーヌ河畔にある女優デュークロの別荘の優雅なサロン。バイヨン公妃はマウリツィオ伯爵の到着を待ち侘びている。マウリツィオは政治的な策略の為に公妃との関係を画策しているが、公妃はその伯爵の気持ちを全く介さず、ただ只彼に対する恋心を募らせるばかりで、その熱情を歌い上げる場面。

～Finale～

ヴェルディ『ナブッコ』 “行け、想いよ、黄金の翼に乗って”

G.Verdi / Nabucco "Va, pensiero, sull'ali dorate"

研修生全員
(Pf.) 石野真穂、高田絢子